

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
 気象レーダー作業班
 第1回 X帯サブ・ワーキング・グループ
 議事概要(案)

1 日時

平成29年10月27日(金) 16:00～17:30

2 場所

中央合同庁舎2号館 総務省 10階 共用10階会議室

3 出席者(敬称略)

リ ー ダ ー: 牛尾 知雄

構 成 員: 齋藤 洋一(代理)、稲見 敏之、猪上 華子、岡田 良教、柿元 生也、
 川辺 俊和、長 康平(代理)、花土 弘、羽田 利博、廣瀬 孝睦、前
 坂 剛、和田 将一

オブザーバー: 伊藤 達郎、田北 順二、田島 慶一、長坂 正史(代理)、濱中 太郎、
 米本 成人

事務局(総務省): 長嶺 基幹通信室長、馬場 課長補佐、柏崎 係長

4 配布資料

気レX 1-1	検討の背景
気レX 1-2	国内外の現状
気レX 1-3	今後の検討の方向性
気レX 1-4	スケジュール表(案)
気レX参 1-1	気象の動向
気レX参 1-2	気象情報の今後の展開
気レX参 1-3	気象レーダーの設置状況(X帯)
気レX参 1-4	国外の現状
気レX参 1-5	第1回気象レーダー作業班資料 作業班運営方針
気レX参 1-6	X帯サブ・ワーキング・グループ構成員名簿

5 議事概要

(1) 開会

(2) 構成員の紹介

(3) 議事

① 検討の背景

事務局が資料「気レX1-1」、「気レX参1-1」、「気レX参1-2」に基づいて説明を行った。

② 国内外の現状

事務局が資料「気レX1-2」、「気レX参1-3」、「気レX参1-4」に基づいて説明を行った。
 発言は以下のとおり。

和田構成員： 参考資料 気レX参1-4「国外の現状」のP3、4において、世界的にX帯の気象レーダーが非常に少ない上に、固体素子型はなく、また、大半が単偏波であるように見てとれるが、2点補足がある。

まず、1点目として、対象のデータには、各国の気象当局が運用しているレーダーのみが集計されており、日本については気象庁のレーダーのみカウント対象となっている。このため、国土交通省が運用している二重偏波レーダー等が含まれていない。例えば、P4のグラフでは二重偏波レーダーが全体の7パーセントであり、台数が31台となっているが、実際には国土交通省が運用する二重偏波レーダーのみでこの数を上回っている。

2点目は、本データが2014年までに集計されたものであるが、それ以降、アメリカでは二重偏波レーダーが盛んに導入されている。また、日本国内では固体素子型の導入が進んでいるが、それらが反映されていないことがある。

③ 今後の検討の方向性

事務局が資料「気レX1-3」に基づいて説明を行った。

④ 研究の紹介

牛尾レーダーが説明を行った。質問は以下のとおり。

長坂代理： フェーズドアレイアンテナの導波管スロットが128本並んでいるという話があったが、これは縦に並んでいるのか。

牛尾レーダー： 横倒しにしたスロットアンテナを縦方向に並べたものである。横方向にはアンテナ本来の狭い幅のビームを照射し、縦方向にはフェーズドアレイ方式で広い幅のビームを照射するものである。

長坂代理： 送信された電波は後で何らかの処理を行うのか。

牛尾レーダー： 処理を行うことにより、受信ビームのみを絞っている。

長坂代理： 送信部についてはどうなっているのか。

牛尾レーダー： スロットアンテナ128本のうち、24本が送信部となっている。

長坂代理： 送信部の分布は決まっているのか。

牛尾レーダー： 一番下の24本が送信用である。

⑤ その他

事務局が資料「気レX1-4」に基づき、今後のサブ・ワーキング・グループの開催予定の説明をした。

(4) 閉会